

制度の隙間の測定尺度の開発

今川智美（大阪大学大学院）

多国籍企業が新興国に進出しようとしたとき、進出国の制度状況を適切に把握することは、国際経営を理解するうえで非常に重要である。Khanna & Palepu (2010; 2015) は、制度環境を5つに分類することによって、制度状況の把握を試みた。すなわち、マクロ環境を捉える枠組みとして①政治・社会システムおよび②国の開放度に、マクロ環境に影響を受けた企業を取り巻く制度については③製品市場、④労働市場および⑤資本市場に分類して、これらに含まれる可能性があると思われる項目をリストアップした。

Khanna & Palepu は構成概念を明確に提示したが、本研究ではそうした研究を進めて次の重要なステップ、すなわち測定項目の妥当性を検証し、制度の隙間を把握するための尺度開発に取り組む。具体的には、まず世界の各地域に位置する新興国に制度環境を問う質問票調査を行い、そこで得られたデータを使用して制度環境を示す尺度を開発した。さらに、これらの尺度を理論的・統計的に検証した結果、制度の隙間を捉える包括的な枠組みを提示する。

これまでの制度論を用いた国際経営研究では、制度の隙間がいかに企業の活動に影響を及ぼすかに関して、事例を元に分析する研究がほとんどであった。研究の潮流を初期段階から中期段階に移行させるためには、ここで定量的尺度を開発し研究することが必要である (Edmondson and McManus, 2007)。Khanna & Palepu (2015) は、70もの指標の候補となる制度状況を提示した。本研究は、Khanna らの研究を元に、制度の隙間を把握するための尺度を構築することによって一連の研究を発展させる。これから先になさされる研究にて実証することを可能にする尺度を開発した。